

保育所における急性ウイルス性肝炎（B型）の集団発生について

1 概要

平成14年4月17日、佐賀市内の病院から佐賀中部保健所に急性ウイルス性肝炎（B型）患者の発生届出があり、保育所、患者及びその保護者等からの聞き取り調査を実施。また、在園児、卒園児、職員約270名の血液検査を実施し、24名の感染者が判明し、24名中、ウイルスを確認できた8名の塩基配列がキャリアの元園関係者の塩基配列と一致（同じウイルス株）した。

今回、保育所その他において血液を介する行為がなかったか調査し、その結果をもとに感染経路の遮断を行い、再発予防に努めた。

2 調査結果概要

（1）感染源

血液検査の結果、キャリアである元園関係者と上記8名の塩基配列が一致。

調査の結果、キャリアである元園関係者がもともとの感染源と考えられるが、元園関係者がすべての感染者の感染源になっているとはいえない。

（2）感染経路

保育所における感染が明らかに確認できるのは8名である。その他の16名は保育所で感染したことが強く考えられるが、確定はできない。

感染経路としては、明確な因果関係は特定できなかったが、疫学的には4つが考えられる。

キャリアの元園関係者から園児への感染、園児間、園児から職員さらに兄弟間の感染である。

キャリアの元園関係者が有する皮膚疾患からでた血液や浸出液が日常保育を通じて園児に感染、また、園児同士の日常の接触（ひっかき、かみつきなどや出血等を伴う皮膚疾患を有する園児同士の濃厚接触）等を通じて感染が拡大したと考えられる。

3 再発防止

一般的に感染の可能性のある処置等（歯ブラシの管理不備、タオルの共有等の衛生管理の不備など）による危険性を遮断するため、保健所が保育所、関係者に指導している。

さらに、保育所でのワクチン接種により感染拡大はないものと考えられる。

4 今後の対応

保健所による保育所に対する継続的な衛生指導の実施。